

ヒラメのリンホシスチス病感染防止対策

水産研究部 養殖環境チーム

1. 研究の背景

リンホシスチス病を発症したヒラメは、体表などに腫瘍が形成されて商品価値が著しく低下し、養殖経営に経済的ダメージを与えている。しかし、この病気の発症メカニズムについては十分に解明されていないため、感染防止対策が実施できていない状況である。そこで、水産研究部では、本病の感染メカニズムに関する研究を愛媛大学、岡山理科大学と共同で行った。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

感染実験の結果、体表に傷がある部分には確実に発症するが、体内にウイルス液を注射しても、傷のない部分には発症しないことが分かった。そのため、リンホシスチス病の感染・発症には傷が必要であることが明らかとなった。したがって、本病の感染経路は、噛み合いやスレなどでできた傷が原因となっていることが示唆された。選別時の取り扱いや、ヒラメ同士が激しく競合するような環境を避けるなどスレの発生予防に取り組むことで、リンホシスチス病の被害軽減に繋がると考えられる。



写真1. 綿棒を用いて体表に傷をつける方法

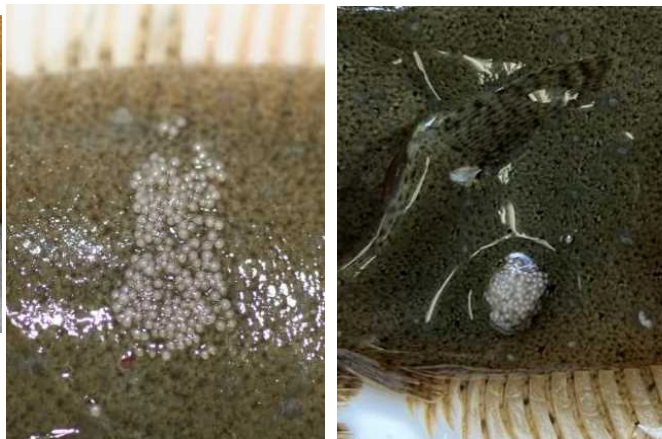


写真2. 感染42日後の発症の様子。左が体表に傷をつけた部分、右がウイルス液を注射した部分。

3. 期待される効果

リンホシスチス病の発症原因が解明され、被害発生を減少させる飼育指導が可能となった。

4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター水産研究部 養殖環境チーム

TEL: 0972-32-2155

住所: 佐伯市上浦大字津井浦194番地6